

# 東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	国語	科目：	現代文演習	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	精選論理国語（東京書籍）	副教材	よむナビ現代文3三訂版（いいずな書店）				
	新版大学入試共通テスト実践演習 論理・文学編（数研出版）		大学入試国語頻出問題1200（いいずな書店）				

年間指導目標：

大学一般受験に対応できる現代文の実践力を、演習を行いながら養成する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	一般入試受験に対応できる語彙や文法の知識、文学史の知識等を身につけることができる。	文章の精読や読んだ上で考えを深めることができる。また効率よく文章を読解する力や問題を解く際の着眼点等を身に付けることができる。	一般入試受験のために主体的に問題演習に取り組むことができる。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	評価方法					配当 時数
					a	b	c	d	e	
1 学期	中間 考査	○評論文読解の基礎を学習し、文章の構造や接続詞に注意して読む。	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる。	○	○	○	○		23
		○小説読解の基礎を学習し、表現に注意して読む。	(思)	文の構造や表現に注意して読むことができる。	○	○		○		
		○一般入試に必要な漢字や語彙の習得を行う。	(態)	積極的に文章を読もうとする。		○	○	○	○	

1 学 期	期 末 考 査	○評論文読解の基礎を学習し、文章の構造や接続詞に注意して読む。	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる。	○	○	○	○		24
		○小説読解の基礎を学習し、表現に注意して読む。	(思)	文の構造や表現に注意して読むことができる。	○	○		○		
		○一般入試に必要な漢字や語彙の習得を行う。	(態)	積極的に文章を読もうとする。			○	○	○	
2 学 期	中 間 考 査	○記述問題の解答の組み立て方を学習し、実践演習する。	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる	○	○	○	○		23
		○選択肢問題の演習を積み、時間内に解ききる実力を身に付ける。	(思)	文の構造や表現に注意して読み、解答を作成できる。	○	○		○		
		○一般入試に必要な漢字や語彙の習得を行う。	(態)	積極的に問題演習に取り組んでいる			○	○	○	
2 学 期	期 末 考 査	○記述問題の解答の組み立て方を学習し、実践演習する。	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる	○	○	○	○		24
		○選択肢問題の演習を積み、時間内に解ききる実力を身に付ける。	(思)	文の構造や表現に注意して読み、解答を作成できる。	○	○		○		
		○一般入試に必要な漢字や語彙の習得を行う。	(態)	積極的に問題演習に取り組んでいる			○	○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	○受験校に合わせた演習を積み、実践力を養う。	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる	○	○	○	○		
		○一般入試に必要な漢字や語彙の習得を行う。	(思)	文の構造や表現に注意して読み、解答を作成できる。	○	○		○		
			(態)	積極的に問題演習に取り組んでいる			○	○	○	
									合計	94

# 東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	国語	科目：	古文演習Ⅱ	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	標準古典探求（第一学習社）	副教材	学ぶぞ古文と漢文				

年間指導目標：

大学一般受験に対応できる古典の実践力を、演習を行いながら養成する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	一般入試受験に対応できる語彙や文法の知識、文学史の知識等を身につけることができる。	文章の精読や読んだ上で考えを深めることができる。また効率よく文章を読解する力や問題を解く際の着眼点等を身に付けることができる。	一般入試受験のために主体的に問題演習に取り組むことができる。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	評価方法					配当 時数
					a	b	c	d	e	
1 学期	中間 考査	○古文単語の修得 ○古典文法の基礎の修得 ○古典常識事項の理解を深める	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる。	○	○	○	○		23
			(思)	文の構造や表現に注意して読むことができる。	○	○		○		
			(態)	積極的に文章を読もうとする。		○	○	○	○	

1 学 期	期 末 考 査	○古文単語の修得 ○古典文法の基礎の修得  ○古典常識事項の理解を深める	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる。	○	○	○	○		24
		(思)	文の構造や表現に注意して読むことができる。	○	○		○			
		(態)	積極的に文章を読もうとする。			○	○	○	○	
2 学 期	中 間 考 査	○古文単語の修得 ○重要古典文法の修得 ○問題演習による解答法の養成	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる	○	○	○	○		23
		(思)	文の構造や表現に注意して読み、解答を作成できる。	○	○		○			
		(態)	積極的に問題演習に取り組んでいる			○	○	○		
2 学 期	期 末 考 査	○古文単語の修得 ○重要古典文法の修得 ○問題演習による解答法の養成	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる	○	○	○	○		24
		(思)	文の構造や表現に注意して読み、解答を作成できる。	○	○		○			
		(態)	積極的に問題演習に取り組んでいる			○	○	○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	○受験校に合わせた演習を積み、実践力を養う。  ○一般入試に必要な単語や文法の確認を行う。	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる	○	○	○	○		
		(思)	文の構造や表現に注意して読み、解答を作成できる。	○	○		○			
		(態)	積極的に問題演習に取り組んでいる			○	○	○	○	
									合計	94

# 東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	地理歴史	科目：	日本史探究	単位数：	4	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	教科書：日本史探究『詳説日本史』		副教材	チェック&演習 日本史			
				図説 日本史通覧			

## 年間指導目標：

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力が身に付いている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	評価方法					配当 時数
					a	b	c	d	e	
1 学期	中間 考査	第1部原始・古代 第1章日本文化のあけぼの 第2章古墳とヤマト政権 第3章律令国家の形成 第4章貴族政治の展開 第2部中世 第5章院政と武士の躍進	(知)	古代国家の諸様態および中世への移行の過程について、総合的に理解し、調べ、まとめることができる。	○			○		24
			(思)	古代国家の諸様態および中世への移行の過程について、多面的に考察・説明・議論することができる。	○			○		
			(態)	古代国家の諸様態および中世への移行の過程について、主体的に探求しようとする態度が育っている。	○	○		○	○	
1 学期	期末 考査	第6章武家政権の成立 第7章武家社会の成長 第3部近世 第8章近世の幕開け 第9章幕藩体制の成立と展開	(知)	武家社会の成立から発展の諸過程について、総合的に理解し、調べ、まとめることができる。	○			○		24
			(思)	武家社会の成立から発展の諸過程における特色について、多面的に考察・説明・議論することができる。	○			○		
			(態)	武家社会の成立から発展の諸過程における特色について、主体的に探求しようとする態度が育っている。	○	○		○	○	

2 学期	中間 考 査	第10章 幕藩体制の動揺 第4部近代・現代 第11章近世から近代へ 第12章近代国家の成立 第13章近代国家の展開 第14章近代の産業と生活	(知) 幕藩体制から近代への移行過程および近代日本の成立過程について、総合的に理解し、調べ、まとめることができる。	○			○		32
		(思) 幕藩体制から近代への移行過程および近代日本の成立過程について、多面的に考察・説明・議論することができる。	○			○			
		(態) 幕藩体制から近代への移行過程および近代日本の成立過程について、主体的に探求しようとする態度が育っている。	○			○			
2 学期	期 末 考 査	第15章恐慌と第二次世界大戦 第16章占領下の日本 第17章高度成長の時代 第18章激動する世界と日本	(知) 近代日本の行き詰まりと第2次世界大戦への道、および敗戦から現代までの日本の歩みについて、総合的に理解し、調べ、まとめることができる。	○			○		32
		(思) 近代日本の行き詰まりと第2次世界大戦への道、および敗戦から現代までの日本の歩みについて、多面的に考察・説明・議論することができる。	○			○			
		(態) 近代日本の行き詰まりと第2次世界大戦への道、および敗戦から現代までの日本の歩みについて、主体的に探求しようとする態度が育っている。	○	○		○	○		
3 学期	学 年 末 考 査	学習内容のまとめと演習	(知) 日本史の各時代の特色や特徴について、総合的に理解し、調べ、まとめることができる。	○			○		44
			(思) 日本史の各時代の特色や特徴について、多面的に考察・説明・議論することができる。	○			○		
			(態) 日本史の各時代の特色や特徴について、主体的に探求しようとする態度が育っている。	○	○		○	○	
合計									156

# 東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	地理歴史	科目：	世界史探究	単位数：	4	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	詳説世界史（山川出版社）	副教材	ウィニングコンパス世界史の整理と演習（とうほう）				

## 年間指導目標：

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	世界史の諸事象について、世界と日本を広く相互的な視座から俯瞰し、古代史から現代史に関する基本的な知識を複数の史・資料を活用し様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	世界史の変化に関わる事象の意味・意義・特色などを、時期・年代・推移・比較・相互の関連・現在とのつながりなどの項目に着目し、多面的・多角的に考察できるとともに、歴史にみられる課題把握と解決を視野に入れた構想力、考察・構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりする力が身に付いている。	世界史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現に向け課題を主体的に追究・解決しようとする態度が身に付いており、多角的・多面的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の歴史や文化に対する愛着、他国や他国の文化を尊重することの大切さについてよく自覚している。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	評価方法					配当 時数
					a	b	c	d	e	
1 学期	中間 考査	第1章 オリентと地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	(知)	ギリシア・ローマ世界、インドの古典文明、中国文明の形成や発展に関する知識を身につけている。	○	○	○	○		24
		(思)	ギリシア・ローマ文明との中のヨーロッパ世界との繋がりを多角的に考察する。日本をはじめとする周辺国家の形成を中国史全体の流れと関連付けて考察する。	○	○		○			
		(態)	ギリシア・ローマ世界の特色とキリスト教発展の意義を、関心を持って学習しようとしている。古代インドや中華文明形成期の社会や文化の特質を追求しようとしている。				○	○		
1 学期	期末 考査	第4章 イスラーム世界の形成と発展 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 第7章 アジア諸地域の繁栄	(知)	イスラーム世界、東西ヨーロッパ世界、モンゴル帝国の支配、明・清の形成や発展に関する知識を身につけている。	○	○	○	○		24
		(思)	イスラーム世界の拡大と変容を、ヨーロッパ世界の動向と関連付けて考察する。封建社会の変容やヨーロッパの拡大を中央集権化と関連付けて考察する。	○	○		○			
		(態)	イスラーム世界の分裂と変容の過程について、関心を持って学習しようとしている。中世ヨーロッパ諸国の政治・社会の動向について、関心を持って学習しようとしている。				○	○		

2 学期	中間 考 査	第8章 近代ヨーロッパの 形成	(知)	大航海時代、ルネサンス、宗教改革、西ヨーロッパ諸国の経済活動と植民地争奪に関する知識を身につけている。産業革命、アメリカ独立戦争、フランス革命に関する知識を身につけている。	○	○	○	○		32
		第9章 近世ヨーロッパ世 界の展開	(思)	三角貿易が西ヨーロッパ有力国にもたらした莫大な利益を、産業革命の前提条件である資本の蓄積と関連付けて考察する。資本主義体制の確立と社会の変容について、社会問題・労働問題と関連付けて考察する。	○	○		○		
		第10章 近代ヨーロッ パ・アメリカ世界の成立	(態)	産業革命の世界史的背景、技術革新や交通革命の進展と波及について、関心を持って学習しようとしている。ウィーン体制の特色とその崩壊過程、社会主義思想の成立と普及について、関心を持って学習しようとしている。				○	○	
2 学期	期 末 考 査	第12章 アジア諸地域の 動揺	(知)	イギリスによるインドの植民地化、アヘン戦争やロシアの進出による清帝国の動揺に関する知識を身につけている。帝国主義の特質とその時代の基本的知識、第一次世界大戦から第二次世界大戦へ至る基本的知識を身につけている。	○	○	○	○		32
		第13章 帝国主義とアジ アの民族運動	(思)	経済力と軍事力を背景とする欧米列強の支配による世界の一体化が、世界各地の社会の変容に与えた影響について考察する。第二次世界大戦の持っていた複合的で複雑な性格を考察する。	○	○		○		
		第14章 二つの世界大戦	(態)	欧米列強が植民地獲得や勢力圏拡大の競争を繰り広げた結果、列強の二極分化が進み、第一次世界大戦に繋がる危機が高まっていったことを関心を持って学習しようとしている。アジア諸民族の民族運動が大众的な基盤を持ち、世界史の新しい潮流をつくり出したことについて、関心を持って学習しようとしている。				○	○	
3 学期	学 年 末 考 査	第15章 冷戦と第三世界 の独立	(知)	第二次世界大戦後の冷戦、第三世界の台頭に関する知識を身につけている。冷戦後の特徴や現象に関する基本的知識を身につけている。	○	○	○	○		44
		第16章 現在の世界	(思)	親ソ政権樹立による東欧諸国の社会主義化とアメリカ合衆国の経済援助や「対ソ封じ込め」政策を比較しながら考察する。	○	○		○		
			(態)	米ソそれぞれの経済協力と軍事ブロックの形成による冷戦構造について、関心を持って学習しようとしている。新たな地域紛争の頻発、経済格差や深刻化する貧困問題など、現代の諸地域世界の情勢について関心を持って学習しようとしている。				○	○	
合計									156	

# 東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	公民科	科目：	政治・経済	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	高等学校 政治・経済（清水書院）	副教材	最新公共資料集（第一学習社）				

## 年間指導目標：

- ・広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
- ・現実社会の複雑な課題を把握し、説明するとともに、構想する力、公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
- ・現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について、基礎的基本的な知識を身につけ、理解を深めている。</li> <li>・諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準						配当 時数
					a	b	c	d	e	
1 学期	中間 考査	第1編第1章 現代政治のしくみと日本 ・政治とはなにか ・現代民主政治へのあゆみと基本原理 ・議会制民主主義と世界の政治体制 ・日本国憲法の成立と基本原理	(知)	・民主政治のあゆみが理解できている。・日本国憲法の三大原理や第9条の内容が理解できている。	○	○	○	○		16
			(思)	・民主政治における国家と個人のあり方が考察できている。	○	○	○		○	
			(態)	・民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。		○		○	○	
1 学期	期末 考査	・基本的人権と新しい人権 ・平和主義と安全保障 ・日本の政治機構 ・政党政治と選挙制度 ・地方自治	(知)	・日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割が理解できている。	○	○	○	○		18
			(思)	・日本国憲法で保障されている権利がどのように適用されているのかを調べ、公共の利益との調和について考察できている。	○	○	○		○	
			(態)	・現代日本の政治制度と自らの生活とのかかわりについて関心をもち、課題を解決しようという意欲をもって学習に臨もうとしている。		○		○	○	

2 学期	中間 考 査	第2章 現代経済のしくみと日本 ・経済活動と経済主体 ・市場経済の機能と限界 ・国民経済と景気変動 ・物価とその変動 ・金融と財政のしくみとはたらき ・日本経済のあゆみ	(知) ・市場経済のメカニズムが理解できている。・金融・財政のしくみを理解している。	○	○	○	○		18
			(思) ・需給曲線を使って、価格変動について考察できている。景気の先行きが判断でき、自ら経済の動向を予測できている。	○	○	○		○	
			(態) ・市場機構だけでは解決できない経済的課題を指摘でき自らの生活と結び付けて経済と接することができている。		○		○	○	
2 学期	期 末 考 査	・企業の活動と役割 ・労働問題と社会保障制度 ・農業と食料問題	(知) 労働問題、社会保障制度、農業と食料問題について理解し、諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。	○	○	○	○		16
			(思) 労働問題、社会保障制度、農業と食料問題について、持続可能な社会を形成するために必要な政策課題を見だし、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○		○	
			(態) 労働問題、社会保障制度について関心をもち、抱える課題を解決しようという意欲をもって学習に臨もうとしている。		○		○	○	
3 学期	学 年 末 考 査	第2編第1章 現代の国際社会と政治 第2章 現代の国際社会と経済	(知) ・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。・戦後の国際経済の流れが理解できている。	○	○				10
			(思) ・国際政治の現状と課題について考察できている。・円高などの為替相場の変動が経済にどのような影響を与えるのか考察できている。	○	○		○	○	
			(態) ・国際社会で平和と安全を維持するため何が有効なのか、自ら意見が持て他者と意見の交流ができている。・グローバル化した国際経済について自分なりの課題や展望が持てている。		○		○	○	
合計								78	

# 東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	数学科	科目：	数学Ⅲ	単位数：	4	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	数研出版 新編 数学Ⅲ	副教材	チャート式 解法と演習 数学Ⅲ+C				

年間指導目標：

極限、微分法及び積分法の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	評価規準					配当 時数
					a	b	c	d	e	
1 学期	中 間 考 査	第1章 関数 第1節 分数関数 第2節 無理関数 第3節 逆関数と合成関数  第2章 極限 第1節 数列の極限	(知)	分数関数・無理関数の定義を理解し、グラフをかいたり、不等式を解くことができる。 逆関数・合成関数の定義や求める手順を理解し、種々の関数の逆関数・合成関数を求めることができる。 数列の極限値の定義を理解し、数列の収束、発散を調べ、極限を求めることができる。	○	○				32
				分数関数・無理関数のグラフと直線の共有点の座標を、連立方程式の実数解に読み替えることができる。 逆関数の定義から、逆関数の定義域・値域や性質を考察することができる。 無限等比級数の収束、発散を、既習である等比数列の和の極限を調べること考察できる。	○	○		○		
				分数不等式・無理不等式の解の意味を考え、グラフを用いて考察しようとする。 逆関数、合成関数の考え方に興味・関心を示し、具体的な問題に取り組もうとする。 不定形の数列の式を、不定形を解消するように工夫して変形しようとする。		○		○	○	
1 学期	期 末 考 査	第2節 関数の極限  第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	(知)	指数関数、対数関数・三角関数の極限が求められる。 定義に基づいて、様々な関数の連続性、不連続性を判定することができる。 指数関数、対数関数・三角関数の導関数を理解し、種々の関数の導関数を計算できる。 媒介変数tで表された関数の導関数を、tの関数として表すことができる。	○	○				32
				微分係数の2通りの表し方を理解し、その図形的意味を考察することができる。 微分可能性を、定義に基づいて考察することができる。 導関数を、微分係数から得られる新しい関数として理解することができる。 高次導関数の計算において、第n次導関数の形を予想することができる。	○	○		○		
				微分係数の図形的意味を考察しようとする。 微分可能性と連続性の関係について、興味・関心をもつ。 自然対数の底eを考える必要性に興味をもち、考察しようとする。 陰関数 $F(x, y)=0$ を微分する方法の簡便さに関心を示す。 様々な曲線の媒介変数表示について興味をもち、考察しようとする。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用	(知)	微分係数の意味を理解しており、接線の方程式を求めることができる。 関数の極大値・極小値や最大値・最小値を調べる際に、増減表をかくて考察している。 曲線の凹凸の定義を理解し、第2次導関数の符号で曲線の凹凸が判定できる。 導関数を利用して、不等式を証明することができる。	○	○					32
			(思)	不等式の形から、平均値の定理を利用するための関数および区間を考察することができる。 平均値の定理を利用して「導関数の符号と関数の増減」の関係を証明する方法を、理解することができる。 導関数の意味から、点の位置を表す関数の導関数が速度、第2次導関数が加速度を表すことを理解できる。	○	○			○		
			(態)	存在定理である平均値の定理に興味をもち、図形的意味を考察しようとする。 関数の増減や極値の問題を、導関数を用いて考察しようとする。 関数のグラフの様々な形に興味をもち、様々な方法でそれを調べようとする。 方程式や不等式を関数的視点でとらえ、解決しようとする。					○	○	
2 学 期	期 末 考 査	第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用	(知)	不定積分の定義や性質を理解し、それを利用して種々の関数の不定積分を計算できる。 定積分の定義や性質を理解し、それを利用して種々の関数の定積分を計算できる。 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。	○	○					32
			(思)	微分法の逆演算として、不定積分を計算することができる。 合成関数の微分の逆演算として、置換積分法を理解することができる。 積の微分の逆演算として、部分積分法を理解することができる。 曲線で囲まれた部分の面積を微少な長方形で近似する考え方で、定積分と和の極限との関係を考察することができる。 定積分が、図形の計量に関して有用であることを認識している。	○	○			○		
			(態)	簡単に不定積分の計算ができないとき、被積分関数の特徴から置換積分や部分積分を利用しようとする。 微分方程式について興味をもち、微分方程式を解いてみようとする。 置換積分法により、複雑な関数の定積分を求めることに興味・関心を示す。					○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	課題学習	(知)	これまでに学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学のよさを認識する。					○	○	28
			(思)								
			(態)								
合計										156	

# 東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	数学科	科目：	数学C	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	数研出版 新編 数学C	副教材	チャート式 解法と演習 数学III+C				

年間指導目標：

ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。なお，ベクトルについては夏季講習で学習する。

	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
評価規準	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	評価方法					配当 時数
					a	b	c	d	e	
1 学期	中間 考査	第1章 平面上のベクトル	(知)	ベクトルの成分表示の仕組みを理解し，具体的なベクトルを成分表示できる。また，そのベクトルの大きさを求めることができる。 ベクトルの内積の定義を理解し，内積を求めることができる。 線分の内分点・外分点を位置ベクトルで表す公式を，実際の図形に適用できる。 直線のベクトル方程式について，媒介変数を用いて表すことができる。	○	○				16
			(思)	点の座標とベクトルの成分の関係を，座標平面上の図形の問題に活用できる。 ベクトルの垂直条件を活用して，与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 位置ベクトルを活用して，3点が一直線上にあることを証明できる。 ベクトルの内積を活用して，図形の性質を証明できる。	○	○		○		
			(態)	成分表示されたベクトルの演算法則を，ベクトルの演算法則から導き出そうとする。 ベクトルの演算に興味をもち，数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。		○		○	○	
1 学期	期末 考査	第2章 空間のベクトル	(知)	空間図形において，ベクトルの和や差を考察することができる。 ベクトルの成分表示について，平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し，ベクトルが等しくなるように成分を定めたり，成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。 空間のベクトルの内積や，成分表示された2つのベクトルのなす角を求めることができる。	○	○				16
			(思)	空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表される理由について，平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることから説明できる。 ベクトルの垂直条件を活用して，与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 空間における図形を，1つの頂点に関する位置ベクトルで考察できる。	○	○		○		
			(態)	平面上のベクトルの性質などが空間でも成り立つことから，ベクトルの定義が次元によらないことに興味をもつ。 平面上のベクトルの内積の性質が空間でも成り立つことから，内積の定義が次元によらないことに興味をもつ。 座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し，座標空間についても同じ考え方で図形の方程式について考察しようとする。		○		○	○	

2 学期	中間 考 査	第3章 複素数平面	(知)	1つの複素数が複素数平面上で1つの点を表すことを理解し、点を複素数平面上に表すことができる。 複素数の極形式について理解し、複素数を極形式で表すことができる。 ド・モアブルの定理を理解し、複素数のn乗を求めることができる。 複素数の方程式について、その意味を考えたり計算したりすることで、表す図形を求めることができる。	○	○					16
			(思)	複素数のn乗根がちょうどn個存在することを、極形式を用いて考察できる。 線分の内分点を表す複素数を活用して、三角形の重心を表す複素数を求めることができる。 点zと連動して動く点wが描く図形について、その式の意味も含めて考察したり説明したりできる。	○	○			○		
			(態)	複素数の積の図形的な意味から、ド・モアブルの定理を自ら見出したり証明したりしようとする。 複素数のn乗根を複素数平面上で図示し、その特徴を見出そうとする。 図形の問題を、複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。 複素数の方程式が表す図形について、複数の方法で考察しようとする。		○			○	○	
2 学期	期 末 考 査	第4章 式と曲線	(知)	放物線の標準形について理解し、放物線の概形をかいたり焦点や準線を求めたりできる。 楕円の標準形について理解し、楕円の概形をかいたり焦点や長軸、短軸の長さを求めたりできる。 双曲線の標準形について理解し、双曲線の概形をかいたり焦点や頂点、漸近線を求めたりできる。	○	○					16
			(思)	軌跡の考え方を用いて、放物線・楕円の方程式を導くことができる。 条件を満たす点の軌跡として、楕円の方程式を求めることができる。 軌跡の考え方を用いて、双曲線の方程式を導くことができる。 焦点がy軸上にある双曲線の方程式について、焦点がx軸上にある双曲線をもとに考察できる。	○	○			○		
			(態)	既知の円や放物線などの曲線を、条件を満たす点の軌跡として捉えなおそうとする。 焦点がy軸上にある楕円の方程式について、焦点がx軸上にある楕円をもとに考察しようとする。 反比例のグラフが双曲線であることに、興味・関心をもち、自ら考察しようとする。		○			○	○	
3 学期	学 年 末 考 査	課題学習	(知)	これまでに学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学のよさを認識する。		○			○		14
			(思)								
			(態)								
合計										78	